

伸びやかな個性光る絵画80点

西宮 学校の枠を超えて世界的な名作をアレンジしたり、仮想の世界を細やかに表現したり…。阪神間にある高校美術部の生徒たちの作品を一堂に集める展覧会

「絵美展」が西宮市川添町の市民ギャラリーで開かれている。色合いや陰影にこだわるなどした絵画約80点が並び、伸びやかな個性を感じさせる。21日まで。(村上貴浩)

阪神間の高校美術部員 作品一堂に

共同制作作品「Newゲルニカ」いずれも西宮市立市民ギャラリー



会場に入ると正面に大迫力の作品が飾られている。タイトルは「Newゲルニカ」。ピカソの「ゲルニカ」の原画を巨大な紙に下書きして分割し、参加した11校が思い思いの配色や技法で仕上げた。写真を切り貼りして線や色に見立てるなど、名作を独創的に再現している。

西宮市などの主催で、美術部の生徒と顧問が実行委員を担い、今年で23回目。鳴尾高校の尾川直美教諭によると「自由に作った作品を披露することができ、展示会の垣根が低くて生徒間の交流も深まる」という。

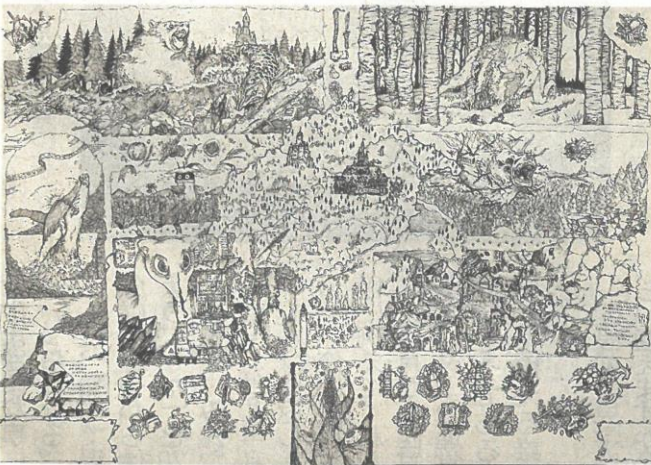
展示会のタイトルになぞらえてエビの天ぷらを写実したり、ペンだけを使って空想上の国や動物を緻密に描き上げたりしている。

鳴尾高校1年生の岡田和樹さん(15)は、受験勉強中に息抜きで絵を描くようになり、入学後は美術部に入部した。今回出品したのは、愛犬トイプードルを描いた作品。ソファの背もたれでくつろぐ姿を捉え「毛のふわふわ感を出すために茶色だけじゃなく、白や黄色を混ぜた」と話し、笑顔でこう付け加えた。「コロナ禍で作品を披露できる場がないので、とつてもうれしい」



岡田和樹さんの作品「我が家の愛犬」

学校の枠超え 共同制作も



上「富国」下「海老天」

午前10時～午後5時(最終日は午後3時まで)。入場無料。絵美展事務局 ☎ 798・47・1324